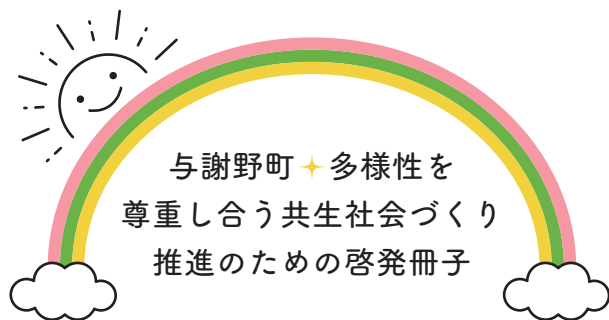




一人ひとりの多様性が 輝く 与謝野町へ



この冊子を読んでいただく みなさまへ

与謝野町は、年齢、性別等のちがい、国籍の異なる文化的なちがい、障害の有無などの個性や特性のちがいにより、暴力や不当な差別的取り扱い、誹謗中傷を受けることなく、だれもが対等な立場であらゆる分野に参画し、いきいきと自分らしく互いに支え合い、その力をいかに発揮することができる社会づくりを進めています。

この冊子をご覧いただき、みなさまに「多様性を尊重する」ことや、聞きなれない言葉かもしれませんが、「マジョリティ※1とマイノリティ※2」とはどういうものかを考える機会としてご一読いただき、一人ひとりができることを見つけるきっかけにしていいただければ幸いです。

多様性を尊重する社会では、だれもが自分らしく安心して生活し、互いに助け合うことができます。そのためには、まず「ちがい」に気づき、それを理解しようとする姿勢が大切です。小さな思いやりや行動が、多様性を尊重する社会をつくる一歩になります。

この冊子を通じて、多様性について学び、考え、そして行動する力を育むお手伝いできればと思います。さあ、いっしょに明るい未来を描いてみましょう！

目次

- 1ページ ① 多様性ってなんだろう？
② わたしの周りの多様性
- 2ページ ③ みんなちがって、みんないい。
- 3ページ ④ マジョリティとマイノリティ
- 4ページ ⑤ 未来の社会は多様性が当たり前
⑥ 多様性を“尊重する”ってどういうこと？
- 5ページ ⑦ わたしたちにできる小さな行動

※1 マジョリティ…社会において主流派に属し、意見が社会の決定に反映されやすい人々

※2 マイノリティ…社会において非主流派であるため、意見が社会に反映されにくい人々

1 / 多様性ってなんだろう？

「多様性を尊重する」とよく耳にするけど、「多様性」ってなんだろうと思いませんか？

私たちは、一人ひとり、顔や名前、性格がちがうように、同じ人は一人もいません。みんな多様な個性をもっています。それと同じように、私たちは異なる文化、価値観、信念、ライフスタイル、性別、年齢、障害の有無、民族、宗教、性的指向など、多様な背景をもちながら生活しています。

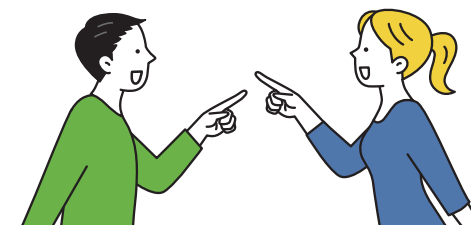
「多様性」とは、このように人々がもつさまざまなちがいを指しています。

もし、みんなが同じ考えや価値観をもっていたらどうでしょうか？新しいアイデアや発見が生まれにくくなり、社会の発展が停滞してしまいます。一方で、多様な背景をもつ人々が集まると、お互いのちがいから学び合い、新しい価値が生まれます。

たとえば、学校でいろいろな国の文化や言葉を学ぶと、外国の友だちとの接し方がわかりやすくなります。また、異なる年齢や障害のある人との交流は、自分とはちがう視点を得るきっかけになります。

多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会では、「ちがいを認め合い、生かしていくこと」が大切です。それは、私たちが住む社会をより豊かにする「カギ」なのです。

2 / わたしの周りの多様性



私たちの身近な生活の中にも多様性はたくさんあります。

たとえば、学校や職場には、年齢や性別がちがう人がいますよね。お店や地域では、高齢の人や外国籍の人もあります。また、見た目ではわからない障害のある人や、異なる文化的背景をもつ人が同じ空間を共有しているかもしれません。

こうした日常の中で、どんな「ちがい」に気づけるでしょうか？そして、その「ちがい」をどう受け止め、どう行動すればよいでしょうか？まずは、自分の周りの多様性に目を向けてみましょう。そして、ちがいを認め合うために自分にできる小さな行動を始めてみませんか。

3 / みんなちがって、みんないい。

日本の詩人、金子みすゞさんが書いた「私と小鳥と鈴と」(裏表紙掲載)という詩の中に「みんなちがって、みんないい。」という一節があるのをご存じですか？

この言葉は、まさに多様性を表す言葉で、私たちがもつちがいを認め合う大切さを教えてくれます。私たちにはそれぞれ得意なことや苦手なこと、好みや考え方があります。一人ひとりのちがいが合わさることで、より豊かで調和のとれた社会がつけられるのです。

たとえば、お祭りの出店を考えてみてください。たくさんの屋台があるから、お祭りは楽しくなりますよね。同じ料理しかなければ、少し退屈に感じるでしょう。社会も同じです。ちがいがあるからこそ、私たちは選択肢を広げ、さまざまな人とつながり、新しい発見ができるのです。

みんなとちがうことは「悪い」ことでも「恥ずかしい」ことでもありません。ありのままの自分を表現でき、ちがいを認め合えることこそ、明るい未来をつくることができるでしょう。



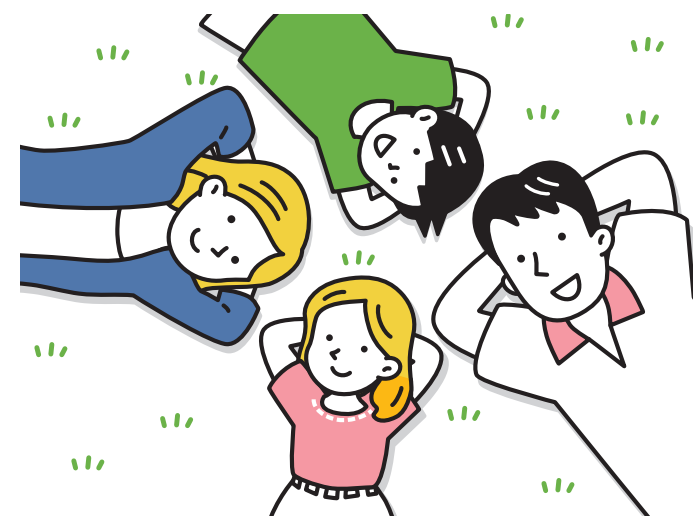
多様性には、年齢や性別、国籍や文化、障害の有無など、さまざまな要素があります。一人ひとりがもつ“ちがい”は決して特別なものではなく、社会を構成する自然な一部です。

4 / マジョリティとマイノリティ

私たちの社会には「マジョリティ(主流派)」と「マイノリティ(非主流派)」が存在します。たとえば、日本では「日本人であること」や「障害がないこと」、「異性愛である」人々が多数を占め、社会の決定に意見が反映されやすいためマジョリティとされています。一方で、「外国人」、「障害のある人」、「LGBTQ等の性的少数者」の人々は、少数であることから社会の決定に意見が反映されにくいため、マイノリティに該当します。また他にも、女性や子ども、高齢者は、少数ではないものの、社会的に弱い立場に置かれやすいためマイノリティになりやすい存在です。

マジョリティがつくったルールや慣習は、時にマイノリティの人々にとって「生きづらさ」の原因となることがあります。たとえば、障害がない人は自分たちが「ふつう」だと思っていて、障害のある人に対して「配慮してあげている」と考える人が多いと思います。しかし、実際は、建物や設備の設計などのあらゆるものが「障害のない人が効率的に動けるようにできている」ということにはなかなか気づきません。こうしたマジョリティ側のもことからある優位性には、マジョリティ自身は見えておらず、そして気づかないうちに、さまざまな「生きやすさ」を手に入れています。マジョリティはその属性ゆえに「労なくして得られる優位性」すなわち「特権」を持っているのです。

マイノリティの人々も暮らしやすい社会を実現するには、マジョリティが「自分たちの特権(優位性)」に気づき、意識を変えることが必要です。それは、すべての人が安心して生きられる社会をつくるための重要な一歩です。



5 / 未来の社会は多様性が当たり前

未来の社会は、どんな姿になるでしょうか？人口減少が進む日本では、私たちがこれから直面する課題を解決するために、多様性を認め合うことがますます重要になります。

たとえば、高齢者が安心して働ける社会。外国から来た人が、地域社会の一員として活躍できる社会。障害のある人がスムーズに移動でき、施設を利用できる社会。だれもが自分の個性や能力を発揮し、自由に生きることができる社会。

このような未来は、決して遠い夢ではありません。それを実現するためには、一人ひとりが「ちがいを尊重する」意識をもち、自分にできる小さな行動を積み重ねていくことが大切です。

未来の社会は、私たち自身の手でつくるものです。「だれもが自分らしく生きられる社会」が、当たり前の社会になるよういっしょに行動してみませんか？

6 / 多様性を“尊重する”ってどういうこと？

多様性を尊重するとは、「ちがいを認める」だけではありません。それは、「ちがいを生かし、支え合う」という積極的な姿勢をもつことです。

たとえば、職場で新しい意見を述べる人がいたとき、その意見に耳を傾け、理解を示すことが尊重です。地域で外国籍の住民が困っているときに、積極的に声をかけることも尊重の一つです。また、障害のある人が困難を感じている場合に手を差し伸べることも、ちがいを尊重する行動と言えます。

それぞれの人が自分にできる小さな行動を積み重ねることが、ちがいを生かし、支え合う積極的な行動へつながり、私たちが暮らす社会全体をより豊かに、より強くします。



7 / わたしたちにできる小さな行動

多様性を尊重する社会をつくるために、私たちにできることはたくさんあります。ここでは、個人として、また地域や職場で取り組める具体的な行動をいくつか紹介します。

多様な人々と関わる機会をもち交流する

地域の行事やイベント、ボランティア活動に参加してみると、多様な人々と自然につながり交流することができます。

相手の話を聞く

自分と異なる考えや価値観をもつ人の話に耳を傾けましょう。そのちがいかからさまざまな価値観や考えがあることを知り、さらに自分の視野を広げることで、物事をさまざまな角度や立場から捉えられるようになります。そうすることで、自分の考えにも柔軟性が生まれ、新たな発想や気づきを得ることができるでしょう。

助けが必要な人に気づき、寄り添う

周りで困っている人がいれば、声をかけてみましょう。「何かお手伝いできますか？」という一言が相手にとって大きな助けになります。

周囲の人に伝える

多様性の大切さを家族や友人と話し合うことも、多様性を広めるきっかけになります。これまで関わらなかった人々と「こんなことを話したよ」と伝えるだけでも変化の一步につながります。

私たち一人ひとりができる小さな行動が、社会全体の意識を変え、より暮らしやすい社会へと導きます。

私たちの与謝野町をより一層明るく、一人ひとりがいきいきと暮らしやすい町になるよう、多様性を尊重し合う豊かな町をみんなの手でいっしょにつくっていきましょう！



『私と小鳥と鈴と』

詩・金子 みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面^{じべた}を速くは走れない。



私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。



「金子みすゞ童謡全集」(JULA出版局)より

令和7(2025)年3月発行

発行

与謝野町住民税務課
人権推進係

監修

与謝野町多様性を尊重し合う
共生社会づくり検討委員会

お問い合わせ

与謝野町住民税務課 人権推進係

〒629-2498

京都府与謝郡与謝野町字加悦433番地(加悦庁舎)

TEL:0772-43-9020

FAX:0772-42-0528

✉ juminzeimu@town.yosano.lg.jp